

第55回

= 創立99年 =

貞香書展

2021.6.23^水~7.5^月

(6.29^日は休館日)

国立新美術館 3A 港区六本木

10:00~18:00(入場は17:30まで) 最終日は15:00閉館(入場は14:00まで)
〈入場無料〉 ご高覧いただくと幸いです。

主催・貞香会

会長 赤平泰処
理事長 光谷素仙

後援・毎日新聞社

(一財)毎日書道会
(公社)全日本書道連盟

貞香会事務所

〒135-0007

東京都江東区新大橋

1-5-4-211 根本方

TEL 03(6284)0466

FAX 03(6284)0467

貞香会とは

貞香会は、大正12年（1923）に書文化の研究と、書芸術の創造を目指して中村素堂が創立し、今年で99年を迎えました。この間、北京・中国美術館（1999・2005年）、台北・国立歴史博物館（1991年）等での海外展も開催してまいりました。毎年、貞香書展・貞香会総合書展を開催し、また、毎日書道展、東方書展にも参画しております。

創設者

中村素堂（1901-1982）は、静岡県に生まれ、15歳で西川春洞の高弟・武田霞洞に師事しました。日本書道美術院、毎日書道展、東方書展の創設に参画し、書壇の再建に努めた近代日本を代表する書作家で、歌人でもあります。その書風は硬質の書を信条として、新文人主義、仏教を根底に置いた書を発表してまいりました。大正大学名誉教授で、武蔵大学をはじめ多くの教壇に立ち、後進の育成、書教育の普及にも邁進しました。また、生涯を通じて蒐集した古今の墨蹟・絵画・古写経をはじめとする系統だった書の研究資料は、後進の研究者のために一括して江戸東京博物館に収蔵されています。



第55回貞香書展入賞者

特別賞・審査会員推挙 岩渕 響泉 近藤 朗詠
 推薦・会員推挙 阿部 匠 高橋 桂祐 中島 翠音 大芦 卿雲 金子多恵子

公募1部

■特選

漢字多字数部門 上杉 香荘 松本 芳琇

仮名部門 伊藤 白珠

■準特選

漢字多字数部門 奥備 愛 壺井 翠櫻 邊見 順子 奈良田有亮 田村 永春
 江波戸泉蓉

■秀作

漢字多字数部門 小山真裕美 曾根 信行 佐藤 史帆 長瀬 亮一 長田 晴海
 長畑 裕子 村山 順子 鈴木 彩香 林 玉凜 岡 聖紅
 塩濱 花菜 武澤 朱里 福田 香朱美

■高校生奨励賞

漢字多字数部門 齋藤 千紘 滋野 綾菜 渡邊 陽奈
 漢字少字数部門 海老原耶々

公募2部

■特選

漢字多字数部門 中上 和美 星野 玲香

漢字少字数部門 宮村 枝翠 田杭 敬心

■準特選

漢字多字数部門 吉田 幸代 市村 星華 萩原 柊花
 漢字少字数部門 仲井 月影 大澤 太郎 沢田 可祝 山中 恵理 大河内秀丸
 詩文書部門 ローゼンフェルト冊子

■秀作

漢字多字数部門 後藤久美恵 堀住有美子
 漢字少字数部門 荒井 良雄 押山 優菜 渡辺 智宝 渡邊 彩華 内山 富美
 奈良田圭亮 小林かさね 鈴木 翠鴻 浜野 果保 栗栖 穂香
 椎名 祥山 高橋英美子 齋藤 龍生 本宮 柳絮 南城 秀子
 山口 和彦

仮名部門 吉岡 紀子

■高校生奨励賞

漢字少字数部門 伊澤 心 門脇 花 五十嵐来美
 仮名部門 湯本 彩愛

第55回貞香書展出品者

特別展示

遺墨 中村 素堂 先生「玉兔入簾」

遺墨 長谷川耕心 先生「遊藝」

顧問

審 荒木 大樹 〔東京〕 「頓中頓」

中村 青藍 〔埼玉〕 千字文二句

審 中村 素岳 〔埼玉〕 高明至賢 德行全誠

参与

奥山 泰嶺 〔埼玉〕 伊達政宗詩

後藤 鶴台 〔山形〕 「志樂於静處」

中谷 春徑 〔東京〕 実朝の歌

晝間 欽堂 〔東京〕 月散三邊

審 松本 宜響 〔栃木〕 「風塵」

若井 香樹 〔東京〕 井上靖詩・交脚弥勒一節

参事

柏木 南城 〔東京〕 「江聲志白沙」

加茂 泰玄 〔栃木〕 弘法大師語

中村 大如 〔東京〕 三教指帰一節

審 中村 東泉 〔千葉〕 姚丞詩

平林 大舒 〔茨城〕 桃青句

二木 秀蔭 〔埼玉〕 頼山陽詩

山根 紅樹 〔東京〕 梅堯臣詩（二首）

会長

審 赤平 泰処 〔東京〕 無量寿経四誓偈之一

理事長

審 光谷 素仙 〔神奈川〕 左偃詩

副理事長

審 坪内 雪山 〔新潟〕 柳子厚詩

副理事長・事務局長

審 根本 泰邱 〔千葉〕 「慈心浄業障」

事務局次長

審 鈴木 蓮徑 〔栃木〕 王昌齡詩

理事

飯野 彩心 〔栃木〕 「英華發外」

今井 泰篁 〔東京〕 王翰句

審 海野 蒼秀 〔埼玉〕 呉偉業詩

後上 菁華 〔埼玉〕 陸游詩

審 高木 素近 〔東京〕 陶淵明詩

高橋 珠翠 〔東京〕 陶淵明詩

審 永井 静軒 〔埼玉〕 島崎藤村「太陽の言葉」

審 中村 香柯 〔埼玉〕 凝神著書 澄懷觀道

浜瀬 碧水 〔東京〕 蘇東坡詩一節

半田 桃香 〔静岡〕 江馬細香詩

三浦 看山 〔神奈川〕 惠遠詩

監事

飯野 柳秬 〔埼玉〕 東飛伯榮歌

審 長尾 泰邨 〔青森〕 歎佛頌一節

評議員

審 秋田谷岱空 〔千葉〕 李商隱詩

石原 翠山 〔東京〕 陳安詩

加地 香泉 〔東京〕 常建詩

審査会員

五野 雪香 〔東京〕 信夫澄子詩

岩崎 芳穂 〔茨城〕 權徳與詩

岩田 映洞 〔埼玉〕 「勝而緊青纓」

上野 泰僊 〔埼玉〕 白樂天句

大塚 澄心 〔埼玉〕 李清照詩

沖 素宮 〔埼玉〕 陶淵明詩

小澤 茜逕 〔東京〕 王勃詩

審 亀和田郁芳 〔栃木〕 麻革句

川島 栖園 〔埼玉〕 韋応物詩

倉石 芳園 〔埼玉〕 甘瑾詩

審 小峰 紀州 〔千葉〕 千家元應詩

酒井 芳華 〔岐阜〕 汪廣洋詩

佐藤 光華 〔埼玉〕 芭蕉おくの細道より

杉戸 泰岳 〔埼玉〕 王軒詩

武内 陽華 〔埼玉〕 魚屋北溪句（辞世）

津田 貞巖 〔埼玉〕 「道法自然」

富田 青軒 〔千葉〕 蘇東坡詩

中田 翠苑 〔千葉〕 李頎詩

中濱 瑞花 〔埼玉〕 シーモア・バーンスタインの言葉

中村 汀華 〔埼玉〕 曹植句

林 澄翠 〔埼玉〕 王維詩

平澤 大廣〔栃木〕 陳子昂詩
 深井 汀苑〔埼玉〕 石田東陵詩
 細田 香瑤〔千葉〕 朱弁詩
 真下 良祐〔千葉〕 清原元輔の歌
 三上 大岑〔島根〕 是生滅法
 三石 貞紅〔茨城〕 倭漢朗詠集より十三首
 光田 秀穂〔埼玉〕 吉野弘詩
 室井 汀翠〔埼玉〕 朱夢炎詩
 森 小華〔千葉〕 汪征遠詩
 矢口 昌華〔千葉〕 陸游詩
 渡辺 蒼秀〔神奈川〕 郎士元詩

会員

岩渕 響泉〔栃木〕 去愚解惑
 上坂 木蘭〔東京〕 良寛詩
 浦野 芽衣〔埼玉〕 丁仙芝詩
 海老原綵翎〔埼玉〕 三好達治の詩
 大石 碧堂〔静岡〕 沈佺期詩
 加藤 翁雪〔栃木〕 曹操詩
 川嶋 芳岳〔千葉〕 良寛詩
 草間 篁山〔新潟〕 常建詩
 近藤 朗詠〔埼玉〕 王漁洋詩
 佐伯 麗子〔東京〕 佐伯静子の歌
 佐藤 観雨〔東京〕 杜牧詩
 佐怒賀昌琴〔埼玉〕 自詠句
 下川 翠雨〔東京〕 陳璉詩
 白根 如雪〔東京〕 若山牧水の歌二首
 鈴木 芳草〔埼玉〕 劉祁詩
 鈴木 玲香〔千葉〕 杜甫詩
 関根 熙雲〔群馬〕 姚丞詩
 富田 希〔長崎〕 李邕詩
 長尾 貫清〔青森〕 「我行精進 忍終不悔」
 根本 柏暢〔東京〕 顔瑄詩
 日向野光苑〔千葉〕 自詠俳句
 松田 翠心〔東京〕 雪山讃歌
 室田 彩翠〔東京〕 自作 山へ登ること
 山崎 香彩〔埼玉〕 王漁洋詩
 横張 瑞泉〔茨城〕 杜甫詩
 渡邊 芳香〔埼玉〕 杜甫詩

委嘱

青木 香露〔東京〕 杜甫詩
 阿部 匠〔東京〕 沈佺期詩
 池ヶ谷慧香〔静岡〕 白居易詩
 池田 翠雨〔千葉〕 業平の歌
 池田 紀子〔栃木〕 孟浩然詩
 今井 文子〔栃木〕 臨 小島切
 江藤 静蘭〔東京〕 李白詩
 江原 覺堂〔東京〕 晋書句
 大芦 卿雲〔埼玉〕 沈佺期詩
 大島 翠玲〔東京〕 陸游詩
 柿沼 陽和〔埼玉〕 王維詩
 金子多恵子〔神奈川〕 張泌詩
 川端 正廣〔東京〕 崔顥詩
 北井 杏怜〔東京〕 李益詩
 向後 佳溪〔千葉〕 李白詩
 越川 淑泉〔千葉〕 盧綸詩
 塩野 洋子〔栃木〕 金文集聯より
 志太 恵佳〔千葉〕 秋歌二首
 篠原 翠峰〔東京〕 蘇東坡詩
 清水 天悠〔栃木〕 「拈華微笑」
 菅谷 虹泉〔千葉〕 「獲麟」
 鈴木 英男〔栃木〕 陳子昂の詩
 関口 恵子〔群馬〕 宋之問詩
 高橋 桂祐〔埼玉〕 錢起詩
 田辺 由美〔神奈川〕 王維詩
 塚山 清峰〔埼玉〕 韋應物詩
 土屋 秀樹〔千葉〕 李白詩
 中島 翠音〔静岡〕 崔顥詩
 中村 吟有〔千葉〕 古今和歌集 百人一首
 野村 佳鈴〔千葉〕 沈佺期詩
 飛田 静風〔千葉〕 皇甫冉詩
 保坂 登志〔栃木〕 「墨華隨乱風」
 益本 雪華〔東京〕 哲土句
 松下 彩虹〔東京〕 蘇東坡詩
 峯岸 悦子〔東京〕 孫逖詩
 村木 香風〔東京〕 黒田三郎詩
 室井 佳鶴〔千葉〕 秋歌三首
 和田 芳華〔栃木〕 臨 敦煌漢簡

渡辺 萌苑〔東京〕 蘇養直詩

会友

伊藤 泉映〔千葉〕 王維詩
上杉 香荘〔東京〕 柴野栗山詩
牛村ひろみ〔東京〕 李白詩
国貞 史絵〔東京〕 夏目漱石詩
鈴木 彩香〔千葉〕 李白詩
田村 永春〔千葉〕 王維詩
壺井 翠櫻〔東京〕 夏目漱石詩
鶴見 侑樹〔栃木〕 杜甫詩
長畑 裕子〔東京〕 杜甫詩
邊見 順子〔埼玉〕 李白詩
村山 順子〔埼玉〕 杜審言詩
毛利 佳峰〔千葉〕 孫逖詩
山本 惠翠〔千葉〕 王維詩

公募一部出品者

浅野 照雄〔東京〕 蘇軾詩
伊丹 春紅〔東京〕 西本願寺三六人集 伊勢集 全臨
伊藤 白珠〔千葉〕 古今和歌集より
江波戸泉蓉〔千葉〕 杜甫詩
海老原耶々〔栃木〕 「沖静得自然」
大木 珠芳〔千葉〕 杜甫詩
大塚那津子〔栃木〕 杜甫詩
岡 聖紅〔東京〕 高適詩
奥備 愛〔栃木〕 杜甫詩
小山真裕美〔埼玉〕 聖果寺 釈 処默詩
小泉 直子〔神奈川〕 蘇軾詩
齋藤 千紘〔栃木〕 李白詩
佐藤 史帆〔静岡〕 李白詩
塩濱 花菜〔栃木〕 郭璞詩
滋野 綾菜〔栃木〕 王湾詩
曾根 信行〔静岡〕 王維詩
武澤 朱里〔栃木〕 李白詩
長瀬 亮一〔東京〕 王維詩
長田 晴海〔東京〕 杜甫詩
奈良田有亮〔埼玉〕 臨 曹全碑一節
根本 悠彩〔千葉〕 劉長卿詩

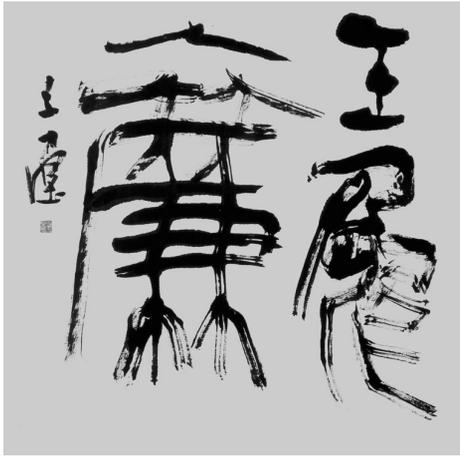
林 玉凜〔東京〕 蘇舜欽詩

福田香朱美〔栃木〕 杜甫詩
松野 澄水〔東京〕 正岡子規詩
松本 芳琇〔埼玉〕 徐仲選詩
水須 涼華〔千葉〕 常建詩
矢島佐智子〔神奈川〕 閑適詩
吉村 幸子〔埼玉〕 杜甫詩
渡邊 陽奈〔栃木〕 楊炯詩

公募二部出品者

青山 由真〔東京〕 「一陽来復」
荒井 良雄〔東京〕 劉禹錫詩
荒木 弘文〔栃木〕 「竹影護琴書」
五十嵐来美〔埼玉〕 臨牛橛造像記一節
伊澤 心〔栃木〕 七言二句
市村 星華〔栃木〕 杜甫詩
内山 富美〔静岡〕 白居易句
遠藤 由信〔神奈川〕 臨松風閣詩卷一節
大河内秀丸〔東京〕 白居易詩
大澤 太郎〔東京〕 郭震詩
押山 優菜〔栃木〕 紫金研帖一節
門脇 花〔埼玉〕 袁凱詩
川名 美緒〔東京〕 王之渙詩
栗栖 穂香〔千葉〕 趙孟頫詩
合田奈乃美〔東京〕 林逋詩
近藤 涼也〔埼玉〕 金子薫園句
小滝 洋一〔栃木〕 張九齡詩
後藤久美恵〔神奈川〕 臨 尉遲為牛橛造像記
小林かさね〔東京〕 杜甫詩
齋藤 節子〔東京〕 「道法自然」
齋藤 龍生〔群馬〕 「吹玉簫弄明月」
沢田 可祝〔東京〕 王勃詩
椎名 祥山〔千葉〕 杜荀鶴詩
須賀 啓太〔埼玉〕 落葉為之紙貴
鈴木 翠鴻〔千葉〕 賈島詩
平良なな子〔東京〕 四時讀書樂
高橋英美子〔東京〕 「無我」
高濱 夏彩〔東京〕 李白句
瀧澤 理子〔埼玉〕 蘇軾詩

田杭 敬心〔千葉〕李白詩
 武田 一恵〔東京〕李白詩
 田中 景子〔神奈川〕蘇東坡詩
 玉井 空子〔東京〕論語より 偶成
 仲井 月影〔東京〕黨懷英句
 中上 和美〔東京〕綦母潛詩
 仲野 好重〔東京〕近松門左衛門の辞世の歌
 奈良田圭亮〔千葉〕臨 集王聖教序一節
 南城 秀子〔静岡〕袁士元詩
 萩原 柊花〔千葉〕李白詩
 長谷川澄苑〔東京〕蘇頲詩
 浜野 果保〔埼玉〕王守仁詩
 星野 玲香〔東京〕白居易詩
 堀住有美子〔静岡〕杜審言詩
 宮川万理子〔東京〕于武陵詩
 宮村 枝翠〔埼玉〕蘇舜欽詩
 村田 良苑〔千葉〕洪自誠詩
 本宮 柳絮〔千葉〕後漢書語
 森 星美〔栃木〕文徵明句
 山内 開〔神奈川〕蘇頲詩
 山口 和彦〔栃木〕「花開酒国春」
 山崎 遥〔東京〕文徵明句
 山中 恵理〔埼玉〕施閏章詩
 山本 幸三〔東京〕李太白詩
 山本 弓絵〔東京〕岑參詩
 湯本 彩愛〔埼玉〕渡辺水巴句
 吉岡 紀子〔神奈川〕山上憶良の歌
 吉田 光陽〔栃木〕盧綸詩
 吉田 幸代〔東京〕丁仙芝詩
 米山 聖〔神奈川〕懺悔文
 〇ベノエル 朋子〔東京〕アマンダ・ゴーマン詩一節
 渡邊 彩華〔東京〕李白詩
 渡辺 智宝〔埼玉〕杜甫詩



遺墨 中村素堂 先生



遺墨 長谷川耕心 先生



会長 赤平泰処



顧問 荒木大樹



顧問 中村素岳



顧問 中村青藍



参与 奥山泰嶺



参与 後藤鶴台



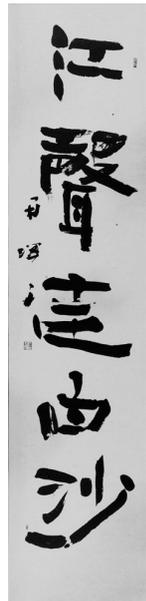
参与 中谷春径



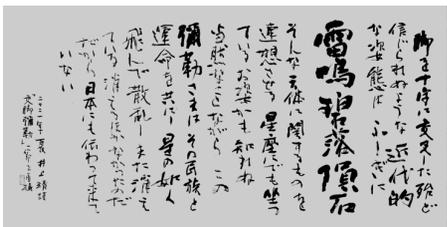
参与 畫間欽堂



参与 松本宜響



参事 柏木南城



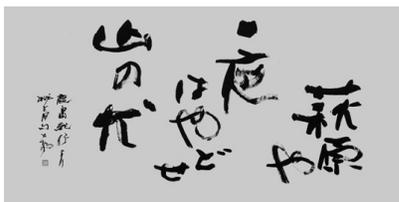
参与 若井香樹



参事 中村大如



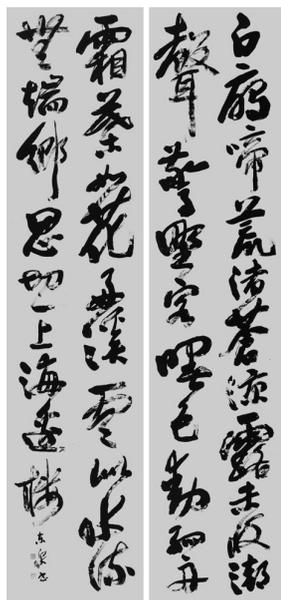
参事 加茂泰玄



参事 平林大舒



参事 二木秀蔭



参事 中村東泉



参事 山根紅樹

寒雲渡江
 帆前黃髮沙鷗起
 水清魚可食
 日復何如
 只身歸
 只身歸

事務局次長 鈴木蓮徑

籬落隔煙火
 農談四隣夕
 庭際秋忍鳴
 疎麻方畝
 塵縷靈輪
 稅機杼空倚
 壁里鬻交經
 過雞柔事
 筵席各言
 官長峻文字
 多
 昔貴東鄉
 後祖期車
 載陷泥潭
 公門少推
 短鞭撲恣
 狼藉努力
 慎經營肌
 膚真可憐
 迎新——
 在此歲惟
 恐踵前跡

副理事長 坪内雪山

寒雲渡江
 帆前黃髮沙鷗起
 水清魚可食
 日復何如
 只身歸
 只身歸

理事長 光谷素仙

閑集

外

理事 飯野彩心

副理事長・事務局長 根本泰郎

慈心淨

業障

辛丑夏月
 願隆病後
 散在邱壑
 不匿于山

希周者世好
 敬海乃鄉里
 豈惟
 能文辭實亦
 堅操履相從
 勉
 講學事業在
 積累仁義本
 何
 常踏之則君子
 送了龍赴
 幸為 飯野滋子書

理事 後上菁華

自信字懶甚
 出底須辛
 苦踏寸長
 春各達
 壇落秋我
 勇如睡月
 清話鬼神
 酒
 滿杯大也
 醉了
 明如圍
 春長
 安
 冠道至
 多少頭
 息湖
 於
 人

理事 海野蒼秀

巨
 世
 心
 意
 力
 全

理事 今井泰宣

貞香書展

- ◆貞香書展は、会員展と公募展で構成されています。
- ◆公募部門には、年齢満15歳（高校生）以上の方どなたでも第1部・第2部どちらかに出品することができます。
- ◆作品の大きさで第1部・第2部に分かれ、それぞれに、漢字多字数部門（21文字以上）・漢字少字数部門（1～20文字）・仮名部門・詩文書部門があります。
- ◆作品の表装など取扱の全般を指定表具店に依頼しています。



貞香会総合書展

- ◆貞香会総合書展は、会員展と公募「書範展」で構成されています。
- ◆公募「書範展」にはどなたでも出品できます。◇一般部：高校生以上、1人1点 ◇教育部：幼児・小学生・中学生、1人1点 ◇半紙部：どなたでも何点でも
- ◆出品料は次の通りです。◇一般部：14,000円（大学生12,000円・高校生10,000円）※標準軸装代含む ◇教育部：3,000円（※仮巻ベタ貼り表装代含む）◇半紙部：600円（※裏打ち代含む）
- ◆'22貞香会総合書展の会期は2022年1月20日（木）～26日（水）まで。東京都美術館で開催します。
- ◆公募「書範展」作品の取扱全般は東京書範社書範展係が行います。

洗碑会

創設者・中村素堂生誕日の5月2日に東京小石川・伝通院にある中村素堂記念碑（「如是我聞」碑）前で催される先師の遺徳を讃える会です。全国から子弟・関係者が集まり、碑文の前に書作への思いを新たにします。記念碑は、開門時間中はいつでも拝観できますので、お近くにおいでの際はお気軽にお立ち寄りください。

（伝通院 URL：<http://www.denzuin.or.jp>）



講演会

貞香会では貞香書展の会期中に講演会を開催しています。本年度は、コロナウィルス感染症のため、開催を中止させていただきます。



近年の講演会開催実績（※講師の先生方の所属等は、講演当時のものです。）

- 2019年 恵美千鶴子先生(東京国立博物館百五十年史編纂室長)「平安時代の書之美」
- 2018年 高橋利郎先生(大東文化大学教授)「近代日本の書」
- 2017年 笠嶋忠幸先生(出光美術館学芸課長)「古典鑑賞と書作」
- 2016年 鍋島稲子先生(台東区立書道博物館主任研究員)
「中村不折と書道博物館コレクション」
- 2015年 大西克也先生(東京大学教授)「楚簡・秦簡より見た戦国時代の漢字について」
- 2014年 富田淳先生(東京国立博物館学芸研究部列品管理課長)
「書譜と黄州寒食詩巻—台北故宮博物院の名跡から—」
- 2013年 名児耶明先生(五島美術館学芸部長・東京学芸大学非常勤講師)
「仮名の散らし書きと日本美」
- 2012年 伊藤滋先生(東京学芸大学非常勤講師・岐阜女子大学特別客員教授)
「日本に所蔵される名帖～碑法帖拓本の世界～」
- 2011年 島谷弘幸先生(東京国立博物館副館長)「書の変遷 その必然性と未来」
- 2010年 杉村邦彦先生(京都教育大学名誉教授・書論研究会会長)
「多胡碑の朝鮮・中国への流伝とそれにかかわった人たち」
- 2009年 松丸道雄先生(東京大学名誉教授)
「漢字研究の最前線—新石器時代から楷書成立まで」
- 2008年 松井茂陽先生(株式会社墨運堂顧問)「墨の不思議」

競書誌『書範』

◆貞香会の競書誌で毎月1日に発行されています。創設者中村素堂先生の随筆や、貞香会関係の展覧会情報などが掲載されています。ぜひご一読ください。

◆詳細については、東京書範社事務局までお問い合わせ下さい。

〒346-0005 埼玉県久喜市本町6-8-18

TEL : 0480-21-2443



展覧会のご案内

令和3年(2021)

○第72回 毎日書道展(東京展)

会場：国立新美術館 会期：7月8日(木)～8月1日(日) 10:00～18:00

※毎週火曜水曜は休館または休室日。毎週木曜は、午前10時開場。

入場は閉会30分前まで

会場：東京都美術館 会期：7月18日(日)～7月24日(土) 9:30～17:30

※7月19日(月)は休館日。18日は正午開幕。入場は閉会30分前まで。

○第35回 西蓮会書展

会場：銀座かねまつホール 会期：10月8日(金)～12日(火) 11:00～18:00

※初日は13:00より、最終日は17:00まで

○第52回 墨光書展

会場：春日部市民文化会館 会期：10月13日(水)～17日(日) 10:00～18:00

※13日は午後1時から

令和4年(2022)

○'22貞香会総合書展 会員展・書範展

会場：東京都美術館 会期：1月20日(木)～1月26日(水) 9:30～17:30

書範展にはどなたでも出品できます。詳細は11頁をご覧ください。

本日は第55回貞香書展にご多用中にもかかわらずご光来賜りご懇情をいただき誠にありがとうございました。皆さまのお言葉を励みに会員一同書の道に精進してまいります。

今後ともご指導のほどよろしく願いいたします。本来ならば拝眉の上ご挨拶申し上げるべきところ、御礼とさせていただきます。

令和3年6月23日
第55回貞香書展出品者一同

